



ウエディングドレスを試着したお客様が、感動して涙ぐまれていたんです。そのお顔がとても綺麗で、今でも忘れられません。その時に私も、素敵なお仕事をさせてもらっているなど実感しました

花嫁の笑顔溢れる ドレス選びをサポート

— 晴れの日を彩る最高の1着を提案する —

●スタイリスト
岡本 真貴子 さん — OKAMOTO Makiko

人生いちばんの晴れ舞台ともいえる結婚式。その大切な1日をより華やかに演出するのがドレスや打掛だ。その衣装選びをサポートするスタイリストとして働き始めた岡本さん。入社後6年間は裏方の仕事をしていたが、直接お客様と触れ合える新たな環境でやりがいを見つけ奮闘する毎日を送る。



❖人の笑顔に携わる仕事がしたい！

「新婦様がドレスを選ぶ時間はいちばんウキウキワクワクする時。楽しい時間をお過ごしただけのようサポートしたいです」。帝国ホテル 大阪のTAKAMI BRIDALで、今年1月からスタイリストとして働き始めた岡本さん。ホテルで式を挙げる新郎様・新婦様やご親族の衣裳を提案し、ともに選ぶのが主な仕事だ。

大学では心理行動科学科で学んでいたが、ブライダル業界に進んだ同級生は他に思い当たらないという。「私がこの業界に進もうと思ったのは、ゼミで学んだ色彩心理学の知識が生かせると思ったこと。そして何より、大学時代に活動していたNPO法人コミュニティ「らこや」のボランティア活動に影響を受けたからだと思います」。地域の子供たちを集めて行う近隣のお寺での宿泊事業や、うどんを粉から作る食育、京都のスタンプリリーといった日帰り事業などの運営に約3年間携わった。

「試行錯誤しながら計画した事業を子供たちが喜んでくれている姿を見て、こんなふうに入社を喜ばせる仕事、人の笑顔に関わる仕事がしたいと自然に思うようになりました」。

TAKAMI BRIDALへ入社した当初は、発注や仕入れを行う商品管理課へ配属に。翌年からは京都のラボにあるセッティング課で、挙式会場へ届ける衣裳に汚れや破れがないかなどの最終チェックを行なう業務に5年間就いていた。「衣裳のメンテナンスやセッティ

ングは外部に委託する会社が多いのですが、TAKAMI BRIDALは自社メンテナンスにこだわっています。ドレス1着にも、当日新婦様が袖を通すまでに何人もの想いが込められているんだという大切なことが、この仕事でよくわかりました。「我が社の心臓部ともいえる重要な仕事」と言われ、やりがいのある仕事に誇りを持って働くことができました。そして今年1月からは、新たにスタイリストとして直接お客様と接する機会を得ることとなった。

❖お客様の笑顔に触れられるやりがい

どちらかといえば人見知りでシャイな性格だと自己分析する岡本さん。最初は営業職にも自信がなかった。しかし実際にお客様と触れ合える仕事には自然と新たなやりがいも見つけられるようになった。「お客様から『ありがとう』の言葉をもらえたり、ドレスを試着する嬉しそうな笑顔を直接見られることが今のやりがいです。勧めた衣裳を気に入ってもらえたら『よし！』と思えるし、何着も何着も迷われた末に納得される1着をご提案できた時は『よかったです！』と、こちらも笑顔になります」。

大学時代には対人関係心理学が専門のゼミに在籍。学んでいく中で人と色彩の関わりを深く知りたいたいという取得したというパーソナルカラーリストの資格も現職で役立つ。なかでも、普段明るい色は選ばないというお客様に、絶対に似合うと確信したイエローのドレスを提案してみたら、新婦様ご本人も大変気に入ってくださり、そのドレスに決定したという経験は大きな自信に繋がった。「資格取得後も、色

❖お客様の「反応」に心ときめく毎日

接客時に岡本さんが最も大切にしている。衣裳選びを楽しんでもらうという心構えは、先輩スタイリストから教わった。「最初は雰囲気にもまれて、皆さんどうしても緊張なさんです。なるべく他愛もない話を投げかけリラックスしていただくことで、少しでも楽しんでもらえるよう努めています。そういった心遣いを重ねるうち、やがて来店時に『岡本さん、いますか？』と自身を訪ねてきてくださるほど打ち解けたお客様が増えたことが嬉しい笑顔をこぼす。

スタイリストの仕事は始めてから心に残っていることは、初めてウエディ

❖唯一無二のスタイリストを目指して

今後は、ドレスだけでなく和装の魅力も伝えていきたいと意気込む。「この華やかな着物1枚を仕立てるにも、糸を染める、機を織る、模様を描く……数多くの技が凝縮されているんです。高齢な職人の方が多く、もう二度と同じものはできないと言われる貴重な打掛も揃えています。どうしてもドレスだけ選ばれてお客様が多いのですが、せっかくの機会なので、和装の魅力もしっかりとお伝えするのが今後の課題です」。

取材時、初めて自分ひとりで担当したお客様の結婚式を数週間後に控えていると教えてくれた岡本さん。「今はまだまだですが、いつかお客様から『岡本さんでよかった』『岡本さんが選んでくれたドレスでよかった』なんて一言が聞けたら、すごく嬉しいでしょうね。いつの日かその言葉をいただくことが一番の目標。まずは日々の接客のなかでいかに喜んでいただけるかを追求しながら、これからもっといろいろな勉強を重ねていきたいと思っています」。

K.C.Alumni

■岡本真貴子(おかもと・まきこ)
2015年3月、人間科学部 心理・行動科学科を卒業。同年4月、TAKAMI BRIDALに入社。商品管理課、セッティング課を経て、2021年より帝国ホテル 大阪 衣裳室にて、スタイリスト業務に従事する。

